

情報連絡員報告 8月

2010.8
August

家電・自動車関連は回復しつつある一方、多くの業界は依然伸び悩み

8月の情報連絡員報告によると、製造業、非製造業とも各DI値の回復傾向が続いている。特に収益・景況のDI値が好転しており、数値上は先月に比べ、一層回復度合が高まったといえる。情報連絡員からの具体的な報告によると、家電や自動車の売上が伸びているため、関連産業の受注が好調であることが伺える一方、その他多くの業界は依然として安値競争や売上不振にあえいでいる実態が現われている。

【製造業63人、非製造業、87人、計150人の集計】

各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製 造 業	非製造業
売 上 高	😊	😊	😊
在 庫 数 量	😊	😊	😊
販 売 価 格	😊	😊	😊
取 引 条 件	😊	😊	😊
収 益 状 況	😊	😊	😊
資 金 繰 り	😊	😊	😊
設 備 操 業 度	😊	😊	😊
雇 用 人 員	😊	😊	😊
業 界 の 景 況	😊	😊	😊

😊 …増加、上昇、好転

😐 …不変

😞 …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
食料品	製麺業	デフレ脱却のためインフレ政策の実施を希望する。
鉄鋼・金属	建築金物製造業	内需を拡大する政策の実施をお願いしたい。
	缶製造業	下請法を企業が有効に活用するためには、具体的どうすればいいか。本当に役立つ支援をいただきたい。
	鍍金加工業	エコカー補助金や家電エコポイント制度の継続を望んでいる。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	公共事業の倍増を望んでいる。
小 売	豆腐小売業	零細企業の救済と景気対策を切に望む。
サービス	公衆浴場業	それぞれの自治体に燃料費の補助を要請しているが理解を得られない。公衆浴場の存続のために是非とも支援をお願いしたい。
	自動車整備業	自動車の定期点検・整備はCO ₂ の削減に寄与する。環境対応の観点から定期点検・整備を推奨してほしい。また、高齢・初心者ドライバーの事故防止のため、ブレーキとアクセルの踏み間違えを防止する装置やブレーキアシスト装置の設置義務化をお願いしたい。

平成22年
8月

業界の声

製造業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食料品	製粉業	猛暑のため、冷や麦やそうめん等、乾麺の需要が増加。このため各組合員とも乾麺関連の売れ行きが好調で、増益となっている。
	帽子製造業	今月は記録的な猛暑が続き帽子の売上は大幅に上昇した。
繊維・同製品	帆布製品製造業	5月以降、売上高は常に下落している。適正価格では受注につながらず、値引き販売が常態化している。見積もり数も多いものの受注につながらない。
	織物製造業	猛暑が長引くことで、秋冬物の売上に影響することが懸念される。
	ニット製品製造業	組合員のほとんどがOEM生産となっているが、注文が入らない状況が続いている。
	洋服製造業	業界最大手の企業が400名に達する人員解雇を行った。もはや業界の存続が危うい状況となっている。
木材・木製品	建具製造業	細かい仕事はあるものの収益につながらない。厳しい状況下で各組合員とも自助努力を行っているが限界に近い。
印刷	印刷業	組合で四半期毎に実施している「売上動向調査」によると、4月の売上は前年を上回ったものの、4～6月の実績は前年比98.7%と悪化している。さらに7～9月の予測は前年比94%と厳しい状況にある。
	印刷加工業	新規参入もある一方、印刷需要の減少とも相まって景況は益々悪化している。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	8月前半は夏期休暇を控え、生産量は増加したが、後半は伸び悩んだ。また、材料価格が値上がりしており、収益面の影響が懸念される。
	ゴム製品製造業	輸出向けは好調さを継続しているが、内需、特に建設関連の状況は厳しい。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	全体的に受注量が減少、特に民需が大きく目減りしている。発注量は減少する一方、価格競争は激化している。
鉄鋼・金属	缶製造業	鋼材価格上昇分の価格転嫁が不十分ながらも進展した。
	ダイカスト製品製造業	自動車関連に加えて産業機械関連も、中国・東南アジア向け生産で忙しかったが、円高の影響が心配される。
	鋳物製造業	業種によっては多少受注量の増加が見られたものの、夏期休暇のため稼働日数が短く、全体として仕事量に変化は無かった。
	鍍金加工業	自動車、通信、家電関係の受注は好調であるが、10月以降悪化することが懸念される。景気が二番底を迎える不安があり、取引先の動向を注視している。
	建築金物製造業	売上高は多少増加したが、先行きは厳しいと見る組合員が多い。
一般機械	写真製版機材製造業	厳しかった昨年の8月に比べても、さらに景況は悪化している。今年に入り示していた売上げの上昇傾向が止まってしまった感がある。
その他の製造	スポーツ用品製造業	野球用品のメーカー出荷ベースでの国内市場規模は約780億円である。ここ数年は横ばいに近い状態が続いているが、以前は年3～5%に近いプラス成長であった。小売り段階ではかなり厳しい状況になっており、ユーザーの買い換えサイクルの長期化、供給過剰、市場価格の下落等が要因として上げられる。
	ガス圧接業	稼働率は上昇しているが、先の受注見通しが立っていない。受注単価の下落に歯止めがかからず、収益率は悪化している。
	工業塗装業	昨年に比べ売上は増加しており、ようやく一息ついた所である。円高については国内産業のさらなる空洞化を招くものと思われる。

平成22年
8月

業界の声

非製造業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸売	食品卸売業	8月は学校が夏休みの為、給食関係の実績はほとんど無い。
	理容用品卸売業	理容業の売上がわずかながら上向いている。要因として、猛暑が散髪を促したようであるが、今後理容店においてはそれぞれの季節に対応したメニュー作りも必要であると思われる。
	美容用品卸売業	前年比では引き続き、売上高、収益状況とも上向いている。
	鶏肉・鶏卵卸売業	猛暑の影響で人々が外出を控えているため、小売店や外食産業の来客数が落ち込んでおり、売上は前年比95%となっている。95%の売上げでも利益の出る商品や販売方法を生み出す必要がある。
	木材卸売業	外材の不足感が薄れ、相場は落ち着いてきた。急ぎの注文が多いが、ロットが少なく売上増加につながらない。
	紙卸売業	高級紙の売上が底を打ち、若干好転した。9月以降の需要増大を期待している。
	玩具卸売業	夏休み商戦に期待をしていたが、前年比95%と裏切られる結果となった。販売店では客数の減少に悩まされたが、要因の一つとして、猛暑のため外出が控えられたことが考えられる。
	電線卸売業	主要な顧客が建設関連である組合員は依然厳しいが、電気機器、情報通信、自動車関連分野は比較的好調であった。
	再生資源卸売業	酷暑が続き飲料の消費が増大しているため、缶・ペットボトルの排出量は前年と比べ増えたものの、古紙の発生量が著しく減少している。
	食器卸売業	飲食業界の不振が続いている。飲食業界を最大のユーザーとしている組合員の厳しい状況が続いている。
	ニット製品卸売業	猛暑が続き客足が伸びないため、夏物の販売は不振であった。
小売	鮮魚小売業	旬の魚の水揚げ量が例年通りではないため、品薄や高値の要因となっている。
	木材小売業	円高の影響で今後輸入木材の価格が下がると考えて、各組合員は仕入の調整を行っている模様である。
	古書籍小売業	天候の影響から客足は伸び悩み、厳しい状況であった。
	自動二輪車小売業	日本自動車工業界（自工会）が行ったバイクメーカー主要4社による合同記者会見において、二輪免許の取得方法の簡素化など、二輪人口の増加策が提案された。
	豆腐小売業	不況感は最大に達している。廃業・脱退組合員は4件有り。売上の不振が最大の理由となっている。組織の勢力維持のため、組合加入推進の取り組みを行っている。
	酒小売業	廉価品の売上は伸びているが利益が出ない。廃業店が25店（西東京市やその周辺、足立区等に多い）も発生した。
	包装材料小売業	段ボールシートの生産量は前年比で102.4%になり、7ヶ月連続で前年の生産量を上回った。しかしながら収益状況に変化は無く、包装材の景況が回復しているとは言い難い。
	電器製品小売業	猛暑に既設のエアコンでは対応できないため買い替え需要が発生し、前年の2倍程度の販売数量が確保できた。テレビの地デジ化が進展し、液晶テレビの売上台数も前年の2倍程度となったが、サイズは小型化したため売上高は前年と同程度だった。冷蔵庫・洗濯機の売上は横ばいとなった。
	中古自動車小売業	中古車不足が恒常化しているため、オークション価格は上昇している。海外輸出は復調の兆しがある。エコカー補助金の終了後の情勢は不透明。
	衣料品小売業	気温の影響から秋物全般が売れない状況にある。
	化粧品小売業	猛暑日が続き、客数が大きく減少している。また、販売価格の下落が顕著になっている他、地域商店街の店舗の厳しい現状が各支部より寄せられている。
	文具小売業	猛暑で来客数が減少。さらに円高による大手スーパー等の低価格競争が激化している。販売価格を下げなければ売れない状況にある。 例年、夏場は低調である。昨年頃から数々の斬新な文具用品が登場しているので、売上に結びつくことを期待している。
	食品小売業	前月に比べると売上は多少持ち直した感があるが、安値販売を行っている状況に変わりない。飲料・氷菓等、夏物商品の売上は順調で、一部の商品については売り切れ状態であった。一般的に食材よりも刺身の盛り合わせや惣菜の人气が高い。

小 売	青果小売業	先月に続き、猛暑の影響により農作物が不作となり価格が高騰した結果、売上は減少した。また、日中の客数が激減した。
	メガネ小売業	組合員の売上高減少が顕著になっている。業界全体としては激安店も同様の傾向にある。
商店街	目 黒	業種間によって収益にばらつきがある。
	秋葉原	連日の猛暑でエアコン・扇風機の動きが活発である。オーディオ・ビジュアル関連は下降気味。パソコン・携帯電話は堅調である。ただし、猛暑のためか、来訪者数は下降気味である。
サービス	クリーニング業	猛暑が続き外出が控えられる傾向からクリーニングに出す頻度が減少している。また、クリーニングを我慢し衣類を着続ける傾向もあるようである。
	飲食業	外食を控える傾向が続き、厳しい状況が続く。
	公衆浴場業	東京都の補助により燃料のガス化が進められているが、ガス料金が高いため容易に普及していない。
	廃棄物処理業	若干荷動きが増加しているが、本来の取扱量には遠く及ばない。再生資源物の市場は上向いている。
	複写業	7・8月の売上は前年比30%以上減少した。ただし、建設工事用図面に関しては注文があり、前年並の受注量を確保できた。複写業界全体が縮小傾向にある中で各組合員は、ユーザーからの印刷データをネットで受信し印刷する「オンデマンド印刷」に力を入れることで、企業再生の努力をしている。
運 輸	貨物自動車運送業	全体としての荷動きは増加しているが、価格競争の激化と荷主側の選別発注が進み、収益格差が出来てる。
	港湾運送業	東京港の6月の取扱量は輸出入合わせて前月比1.1%、前年比で19.4%増となった。
建 設	内装工事業	8月に入り組合脱退の申し入れが増えている。事業規模が小さい組合員ほど厳しい状況にあるようである。